

句集

第34回 月山俳句大会



期 間：令和6年11月1日～令和6年11月30日
吟行地：紙上開催

主催／月山俳句大会実行委員会

後援／西川町、西川町教育委員会、山形県俳人協会

～目次～

P. 1	…	挨拶
P. 2	…	選者紹介
P. 3－7	…	入選作品
P. 8－19	…	投句全作品
P. 20－21	…	月山の紹介

挨拶

この度は、西川町制施行 70 周年を迎える年に当たる第34回月山俳句大会にご応募いただき、誠にありがとうございます。

さて、本大会は山形県西川町の自然や歴史、文化に触れながら、より多くの方からの投句を受けられるように、ネット投句を含めた、紙上開催という形で実施いたしました。今回は全国各地から72名、142句のご応募をいただきました。

また、ご多用のところ快くお引き受けくださいました選者の先生方に、実行委員一同、心から感謝申し上げます。

昨年夏は西川町においても、暑い夏がどこまでも続くような気温の高い状態が続くこととなり、四季の変化が乏しい年となりました。一方で、この冬は、数十年ぶり的大雪となり、月山の麓にある志津地区は「隠れ積雪日本一」をうたっておりますが、まさにその名のとおり5メートルを超える積雪を記録し、マスコミなどでも大々的に取り上げられているところです。

末筆ではございますが、皆々様に、今後とも、月山俳句大会に対するご理解とご協力をお願い申し上げます、挨拶といたします。

令和7年2月吉日

月山俳句大会実行委員会

実行委員長 工藤 稲邨

選者紹介

山田 ^{たか よ}貴世 [神奈川県藤沢市]

「波」主宰

藤沢市俳句協会会長

現代俳句協会役員推薦理事

鈴木 ^{まさこ}正子 [山形県山形市]

山形県俳人協会前会長

「胡桃」主宰

「初蝶」同人

「やましん俳壇」選者

伊藤 ^{かん}寛 [山形県天童市]

山形県俳人協会会長

「古志」同人

工藤 ^{とうそん}稲邨 [山形県西川町]

山形県俳人協会前常任幹事

西川町せせらぎ俳句会前会長

「波」同人

入選作品

西川町長賞

五五 月山の湧水を揉む紙漉女

山形市

横道輝久子

入選作品

山田 貴世 先生選

特選

三 月山ばかり見て帰省子の朝

神奈川県

富山ゆたか

秀逸

二八 歲月にも竹の節あり去年今年

神奈川県

西室登

一二七 月山の裾のほころび路の臺

東根市

伊藤幸

佳作

九 月山を仰ぎ匂なる蕎麦啜る

山形市

和田英光

四六 新そばを啜る相席道の駅

河北町

後藤美代

一〇六 月山の風を自由に白鳥来

山形市

鈴木実

入選作品

鈴木 正子 先生選

特選

九五 一村を捨てると決めて十二月

酒田市

菊地英雄

秀逸

八五 小春日や今年中にとペンキ塗る

山形市

田中教仁

一〇八 初雪の月山病窓に生るる

東根市

名和則子

佳作

三一 枯木立空が黑板森敦

山形市

清野佐和子

五五 月山の湧水を揉む紙漉女

山形市

横道輝久子

七三 月山の初雪見つつ野菜摘む

大石田町

柏倉ヤス子

入選作品

伊藤 寛 先生選

― 特選 ―

九〇 月山へ還る田の神落とし水

上山市

石井浩吉

― 秀逸 ―

五七 星よりも夜を生き生きとシクラメン

神奈川県

伊藤美也子

一一七 大寄せの茶会楽しや文化祭

河北町

小和田和子

― 佳作 ―

一五 有休をとって終日雪囲い

西川町

板坂歩牛

二一 農業祭重さ当ててと大南瓜

山形市

松田恵子

三二 紅葉寺恵比寿大黒火伏札

山形市

清野佐和子

入選作品

工藤 稻邨 先生選

特選

五五 月山の湧水を揉む紙漉女

山形市

横道輝久子

秀逸

九九 手を合す無となる心今日の月

西川町

藤本昭子

一三一 月山の水が潤す今年米

河北町

安孫子信裕

佳作

六三 月山の水を手を受く素秋かな

西川町

奥山則子

一一一 退院の妻を鼓舞する石路の花

東根市

名和輝男

一四一 月山の山並み白く里紅葉

河北町

鈴木新一

投句全作品 (投句順)

一 六地蔵ちよこんとのせる冬帽子
ろくじぞう ふゆぼうし

横浜市

蒲谷 トシ子

二 燦々とひかり引きつれ冬の蝶
さんさん ひ ふゆ ちょう

横浜市

蒲谷 トシ子

三 月山ばかり見て帰省子の朝
がつさん み きせいし あした

相模原市

富山 ゆたか

四 月山を真向ひ新酒酌み交はす
がつさん まむか しんしゆく か

相模原市

富山 ゆたか

五 静寂の錦を映す五色沼
せいじやく にしき うつ ごしきぬま

西川町

荒木 吉則

六 ブナの森黄色鮮やか一人旅
ぶな もりきいろあざ ひとりたび

西川町

荒木 吉則

七 月天心芭蕉宿りし野辺照らす
つきてんしんばしやうやど のべて

町田市

高橋 きよ子

八 鴨が来て過疎村の川目覚めさす
かも き かそむら かわめざ

町田市

高橋 きよ子

九 月山を仰ぎ旬なる蕎麦啜る
がつさん あお しゆん そばすす

山形市

和田 英光

一〇 梶の葉に命と書いて流しけり
かし は いのち か なが

山形市

和田 英光

一一 バス登る日差しに透ける撫紅葉
のぼ ひざ す ぶなもみじ

西川町

高橋 真喜子

一二 月山のふもとの村の木守柿
がつさん むら きもりがき

西川町

高橋 真喜子

一三 我^わが庭^{にわ}のもみじ^{きそ}が競^きカラフル^るに

西川町

工藤 恵美子

一四 早番^{はやばん}の寒^{さむ}きびしき時間^{じかん}帯^{たい}

西川町

工藤 恵美子

一五 有休^{ゆうきゅう}をとつて終日^{ひねもす}雪^{ゆき}囲^{がこ}い

西川町

板坂 歩牛

一六 結袈裟^{ゆいげさ}に紅葉^{もみじ}且^ちつ散^{つき}る月^{やま}の山

西川町

板坂 歩牛

一七 月山^{がつさん}に淡^{あは}き紅^{べに}さす帰^{かえ}り花^{ばな}

山形市

鹿野 明彦

一八 月夜^{つくよみ}命^{しぐれ}に時雨^{つき}はなやぐ月^{やま}の山

山形市

鹿野 明彦

一九 農業祭^{なげうまつり}重^{おも}き当^{あた}ててと大^{だい}南^{なん}瓜^か

山形市

鹿野 明彦

二〇 月夜^{つくよみ}命^{しぐれ}に時雨^{つき}はなやぐ月^{やま}の山

山形市

鹿野 明彦

二一 農業祭^{なげうまつり}重^{おも}き当^{あた}ててと大^{だい}南^{なん}瓜^か

山形市

松田 恵子

二二 空^{そら}高^{たか}しホームラン^{ほーむらん}に沸^わく草^{くさ}野^の球^{たまご}

山形市

松田 恵子

二三 古^こ希^きと喜^き寿^{じゅ}揃^{そろ}ひ勤^{きん}労^{ろう}感^{かん}謝^{しゃ}の日^ひ

鶴岡市

牧 静

二四 初^{はつ}恋^{こい}の^{はなし}話^{はなし}におよぶ日^ひ向^{むか}ぼこ

鶴岡市

牧 静

二五 稜線を準りし月山朝月夜
りようせん なぞ がっさんあさづきよ

天童市 佐東 竹子

二六 月山の蒙霧升降弥陀ヶ原
がっさん ふかきりまどうみだがはら

天童市 佐東 竹子

二七 どこまでも紅葉の海よ出羽のぶな
もみぢ うみ では

神奈川県大磯町 西室 登

二八 歳月にも竹の節あり去年今年
さいげつ たけ ふし こぞ ことし

神奈川県大磯町 西室 登

二九 いにしへを語る梵鐘秋深し
かたる ぼんしょうあきふか

村山市 堀野 カヅ子

三〇 夕厨何はさておき今年米
ゆうくりやなに ことしまい

村山市 堀野 カヅ子

三一 枯木立空が黒板森敦
かれこたちそら こくばんもりあつし

山形市 清野 佐和子

三二 紅葉寺恵比寿大福火伏札
もみじでらえび すだいふくひふせふだ

山形市 清野 佐和子

三三 高速のフェンス画布とし蔦紅葉
こうそく がふ つたもみじ

鶴岡市 秋野 洋子

三四 修験者の霧に吞まれる獣道
しゅげんじゃ きり の けものみち

鶴岡市 秋野 洋子

三五 みちのくの旅の別れの桜もち
たび わか さくら

さいたま市 増田 信雄

三六 鳴く鳥の方へ方へと青き踏む
な とり ほう ほう あお ふ

さいたま市 増田 信雄

三七 古寺や無常の教示破芭蕉
ふるでら むじよう きようじやればしろう

町田市

古川 保華

三八 旅に寝て編み笠一つ枯れ野かな
たび ね あ がさひと か の

町田市

古川 保華

三九 もみいづる靈山の風拝受して
れいざん かせはいじゆ

山形市

浅野 友美

四〇 師の描く山肌和し暮秋かな
し えがくやまはだなご ぼしゆう

山形市

浅野 友美

四一 裸木に太き足あり顔もあり
はだかき ふと あし かお

藤沢市

山田 貴世

四二 晴れ晴れと鳥の楽園大刈田
は ば とり らくえんおおかりた

藤沢市

山田 貴世

四三 月山の雄姿隠せし霧襖
がつさん ゆうしかく きりぶすま

河北町

後藤 貞義

四四 月山の襟添へて注連仕上ぐ
がつさん ゆずりはそ しめしあ

河北町

後藤 貞義

四五 月山の嵐が目安雪囲
がつさん おろし めやすゆきがこい

河北町

後藤 美代

四六 新蕎麦を啜る相席道の駅
しんそば すす あいせきみち えき

河北町

後藤 美代

四七 初雪や今年は紅葉ドッキング
はつゆき ことし もみじ

庄内町

菅原 桂一

四八 ゆく秋のいよよ冴えたる読経かな
あき さ どきよう

吹田市

富永 武司

四九 竜田姫錦の杖に腕振るう
たつたひめにしき つえ うでふ

五〇 雪明り月山の頂き花が散る
ゆきあか がっさん いただ はな ち

吹田市 富永 武司
東京都北区 設楽 新之介

五一 花が舞白い頂き恋化粧
はな まいしろ いただ こいげしやう

東京都北区 設楽 新之介

五二 月山の話は尽きぬ紅葉宿

山形市 横道 啓一

五三 宿坊の月山櫺のなめこ汁

山形市 横道 啓一

五四 神慮なるいよよ月山眠りけり
しんりよ がっさんねむ

山形市 横道 輝久子

五五 月山の湧水を揉む紙漉き女
がっさん ゆうすい も かみす め

山形市 横道 輝久子

五六 冬菊や行方不明の私の夢

神奈川県大和市 伊藤 美也子

五七 星よりも夜を生き生きとシクラメン

神奈川県大和市 伊藤 美也子

五八 霜降の松の菰巻いそがるる
こうそう まつ こもまき

鶴岡市 齋藤 峯男

五九 小春日の空の青さの高くあり
こはるび そら あお たか

鶴岡市 齋藤 峯男

六〇 雪解水間沢の里を潤ほせり
ゆきげみづまざわ さと うる

天童市 須貝 蕉風

六一 月山湖噴水の虹高々と
がつさんこふんすい にじたかだか

天童市

須貝 蕉風

六二 雪晴れや理髪店より月の山
ゆきば りはつてん つき やま

西川町

奥山 則子

六三 月山の水を手を受く素秋かな
がつさん みず て う そしゅう

西川町

奥山 則子

六四 月山の聖霊は民村の秋
がつさん せいれい たみむら あき

横浜市

山澤 和子

六五 月山の一木一草もみぢ月
がつさん いちぼくいつそう つき

横浜市

山澤 和子

六六 日増す毎紅を深めて残り柿
ひま ごとべに ふか のこ がき

西川町

長登 紀元

六七 はらわたに浸みて満顔今年酒
し まんがんことしざけ

西川町

長登 紀元

六八 月山の色塗りつぶす夕紅葉
がつさん いろぬ ゆうもみじ

山形市

栗原 ただし

六九 三度目も空振りなしし茸狩り
さんどめ からぶ きのが

山形市

栗原 ただし

七〇 新涼や街も並木も透き通り
しんりょう まち なみき す とお

河北町

榎 和子

七一 蹴り上げしラグビーボール月と成り
け あ つき な

河北町

榎 和子

七二 芭蕉曾良の超えし峠路栗の花
ばしょうそら こ どうげじくり はな

大石田町

柏倉 ヤス子

七三 月山の初雪見つつ野菜摘む
がつさん はつゆきみ やさいつ

大石町

柏倉 ヤス子

七四 星流れ瀬音の彼方月の山
ほしなが せおと かなたつき やま

横浜市

工藤 加代子

七五 深雪晴れ月山道を故郷へ
みゆきば がつさんどう ふるさと

横浜市

工藤 加代子

七六 ハイウェイ雲の切れ間の紅葉山
くも き ま もみじやま

西川町

清野 幸夫

七七 山城の武士の道落葉踏む
やまじろ もののふ みちおちば ふ

西川町

清野 幸夫

七八 人里に神の降り来て鐘さゆる
ひとさと かみ お き かね

山形市

鈴木 周子

七九 村衆の氏神様の煤払
むらしゅう うじがみさま すすばらい

山形市

鈴木 周子

八〇 涼風とわたる海峡魚とぶ
すずかせ かいきようさかな

寒河江市

志田 紀子

八一 小春日や義母ほほえみて虹渡る
こはるび ぎぼ にじわた

寒河江市

志田 紀子

八二 一葉に俳誌の歴史冬芽立つ

神奈川県藤沢市

石垣 みち代

八三 月山に向かひ正月事始

神奈川県藤沢市

石垣 みち代

八四 温泉に無念無想で冬さざる
おんせん むねんむそう ふゆ

山形市

田中 教仁

八五 小春日や今年中にとペンキ塗る
こはるび ことしじゅう

山形市

田中 教仁

八六 蓑虫に日照雨来てゐる遠月山
みのむし そばえき とうがつさん

山形市

鈴木 あい

八七 散紅葉水琴窟の小声かな
ちりもみじすいきんくつ こごえ

山形市

鈴木 あい

八八 一瞬の大き沈黙雪の第九
いつしゆん おお ちんもくゆき だいく

山形市

結城 光吉

八九 小春日やすっぱんぽんの空へ鳶
こはるび そら とび

山形市

結城 光吉

九〇 月山へ還る田の神落とし水

上山市

石井 浩吉

九一 月山てふ名酒や秋の行者膳

上山市

石井 浩吉

九二 青嶺風軋む廊下の湯治かな
あおねかせきし ろうか どうじ

河北町

日塔 貞子

九三 岩に湧く源泉の湯や寒椿
いわ わくげんせん ゆ かんつばき

河北町

日塔 貞子

九四 櫓田のまだ生きんとす青きさかな

酒田市

菊地 英雄

九五 一村を捨てると決めし十二月

酒田市

菊地 英雄

九六 替歌の人生の機微枯葉舞ふ
かえうた じんせい きびかれはま

河北町

石垣 まさ子

九七 めい えん めい なつぼうし
名園に名ガイドあり夏帽子

河北町

石垣 まさ子

九八 す も みじ つき やま
吸ひこまる燃ゆる紅葉の月の山

西川町

藤本 昭子

九九 て あわ む こころきよう つき
手を合す無となる心今日の月

西川町

藤本 昭子

一〇〇 やまねむ にっとうさだこ つき やま
山眠る日塔貞子と月の山

仙台市

城之崎 梢

一〇一 おお いさわ こうど おく おおぐり
大井沢古道の奥の大栗よ

仙台市

城之崎 梢

一〇二 りゅうせい とぶ ま しも よる
流星の飛ぶと待ちゐる霜の夜

山形市

庄司 芳彦

一〇三 かれやま がっさんきわだ
枯山もありて月山際立たす

山形市

庄司 芳彦

一〇四 金のすすき月山に向かい手をふりぬ

河北町

佐藤 玄祐

一〇五 月の山落葉は笑うカラカラと

河北町

佐藤 玄祐

一〇六 がっさん かぜ じゆう はくちようく
月山の風を自由に白鳥来

山形市

鈴木 実

一〇七 おお みたま お ことりく
大いなる御霊を帯びて小鳥来る

山形市

鈴木 実

一〇八 はつゆき がっさんびようそう あ
初雪の月山病窓に生るる

東根市

名和 則子

一〇九 秋の古寺曙光を拝む手に塗香
あき こじしやうこう おが て ずこう

東根市 名和 則子

一一〇 西川町隠れ積雪日本一
にしかわまちかく せきせつにほんいち

東根市 名和 輝男

一二一 退院の妻を鼓舞する石路の花
たいいん つま こぶ つわ はな

東根市 名和 輝男

一二二 冬風の湾を眺むる足湯かな
ふゆなぎ わん なが あしゆ

東根市 高橋 順子

一二三 撥叩く三味線のジャズ冬の月
ばちたた しゃみせん ふゆ つき

山形市 高橋 順子

一二四 月山の稜線燃えて霧に消ゆ
がつさん りやうせんも きり け

東根市 青山 君代

一二五 初時雨白装束の杖頼る
はつしぐれしろしやうぞく つえたよ

東根市 青山 君代

一二六 こげ茶色の皮むく手指芋茎干す
ちやいろ かわ てゆびすいきほ

河北町 小和田和子

一二七 大寄せの茶会楽しや文化祭
おおよせ ちやかいたの ぶんかさい

河北町 小和田和子

一二八 一面の銀杏落葉や我が庭にも
いちめん いちやうおちば わ にわ

河北町 和田 淑子

一二九 秋の日や百万遍の鉦叩き
あき ひ ひやくまんべん かねたた

河北町 和田 淑子

一二〇 千年の時空を今に紅葉散る

山形市 斎藤 真人

一二一 月山の光る岩座山眠る

山形市

斎藤 真人

一二二 羽黒路の山々深く冬は来ぬ
はぐろじ やまやまふか ふゆ き

鶴岡市

佐藤 恭

一二三 月山を超えて墨絵の冬景色
がつさん こ てすみえ ふゆげしき

鶴岡市

佐藤 恭

一二四 借景の山は静かに薄紅葉
しゃつけい やま しず うすもみじ

西川町

奥山 みよし

一二五 早春の月山照るや雲真白
そうしゆん がつさんて くもましろ

西川町

奥山 みよし

一二六 山もみじ心なごます秋の空
やま こころ あき そら

西川町

堀 きぬ

一二七 月山の裾のほころび路の臺
がつさん すそ ふき どう

東根市

伊藤 幸

一二八 かしましきほど捗りてさくらんぼ
はかど

東根市

伊藤 幸

一二九 平安の世の輝きや実紫
へいあん よ かがや みむらさき

河北町

渡辺 洋子

一三〇 雪纏ひ心育む月の山
ゆきまと こころはぐく つき やま

河北町

渡辺 洋子

一三一 月山の水が潤す今年米
がつさん みず うるお ことしまい

河北町

安孫子信裕

一三二 雪の里逆手に取りて町興し
ゆき さとさかて と まちおこ

河北町

安孫子信裕

一三三 月山の雪灯籠の灯六花
がっさん ゆきどうろう ひむつのはな

東京都豊島区

天野 郁子

一三四 雪の中三山参り行者径
ゆき なかさんざんまい ぎようじやみち

東京都豊島区

天野 郁子

一三五 南天の実を啄みて冬籠り
なんてん み ついば ふゆごも

茨木県古川市

齋藤 みね

一三六 厳冬を越えし雑草抜き難し
げんとう こ ざっそうぬき がた

茨木県古川市

齋藤 みね

一三七 月山の雪の旅籠や町灯
がっさん ゆき はたご まちあかり

横須賀市

宮沢 和子

一三八 千年のブナ林のダム雪見酒
せんねん りん ゆきみさけ

横須賀市

宮沢 和子

一三九 小鳥来てガラス戸越しに見入る朝
ことりき どこ みい あさ

松戸市

佐藤 いよ

一四〇 貴船菊凜と生きよと庭に咲く
きふねぎくりん い にわ さ

松戸市

佐藤 いよ

一四一 月山の山並み白く里紅葉

河北町

鈴木 新一

一四二 白菜に刃物入れたるや白き肌

河北町

鈴木 新一

がっさん

月山の紹介

月山は山形県の中央に位置し、標高は 1,984m。朝日連峰や飯豊連峰とともに磐梯朝日国立公園に指定されています。

日本百名山の一つでもある月山は出羽三山の主峰であり、山岳信仰の山として知られ、山頂の月山神社には「月読命」が祀られており、奥の細道の松尾芭蕉が、月山に登山し「雲の峯いくつ崩れて月の山」と歌いました。豊富な残雪を活用し、国内で唯一、夏スキー（4月上旬～7月下旬）を楽しむことが可能です。

また、雪解けとともに咲き誇る高山植物が約 350 種類以上、秋には鮮やかな紅葉など、四季折々のトレッキングを楽しむことができます。



残雪とブナの新緑の

トレッキングを楽しむ

夏でも滑走可能

月山夏スキー





残雪に高山植物
トレッキングを
楽しむ

燃えるような
美しい紅葉



雄大なブナ原生林
スノーシュー
トレッキング



『月山志津温泉 ^{ゆきはたご}雪旅籠 ^{あか}の灯り』

「第 34 回月山俳句大会」句集

編集・発行 月山俳句大会実行委員会

〒990-0703 山形県西村山郡西川町大字間沢 280

(西川交流センターあいべ内)

TEL : 0237-74-3131 FAX : 0237-74-3219

E-MAIL : shogai@town.nishikawa.yamagata.jp